

れば半額免除とか全額免除とかそういう制度で若い人を引きつけなきゃいけないと思うんです。それから、高卒で直接対馬で就職される方もそういう方にもやっぱり就職したら就職の祝い金とか3年たったら褒賞金とか、5年たったらそれに値するようなまた褒賞金的なもの、それもやはり育英制度の基金の中で運用をするような方策をぜひ考えていただきたいということを要望して、終わりたいと思います。

以上です。

○議長（堀江 政武君） これで小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。

再開は3時10分からとします。

午後2時55分休憩

午後3時09分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 本日の最後でございます。市長のほうに、私は簡単明瞭に質問をいたします。答弁もなるだけ省略していただいて一問一答で時間をとりたいと、かように思っております。よろしく申し上げます。

未来研究会の大浦でございます。通告に従いまして市政一般について質問を行います。

昨年、韓国の観光客の流入は21万人と発表されたところでありますが、さらに海運業者が船の大型化を図り、流入は拡大の方向にあるようにございます。ちまたのうわさでは、近い将来、40万人を前後に膨らむものではなかろうかというふうな専門家の見方もございます。このことは大型船の建造、就航、800人乗りの規模、そして440人の規模を有した船会社の就航でございます。

このようなことで、今後、対馬市に大量の観光客が流入することが当然見込まれます。対馬市として、今後の展望をどのように捉えておるか。1つ、宿泊施設の問題、2つ、観光ルートの新規開発の構想、3つ、港湾の整備、4つ目に経済効果について、市長の考えを伺いたいと思えます。よろしく申し上げます。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

韓国人観光客数の推移につきましては、先ほども述べられましたように、どんどん急激なカーブでふえているところでございます。平成23年からはJR九州高速船、そして、未来高速株式

会社が新たに算入されたことによりまして3社体制となり、平成27年度には韓国人観光客が21万3,676人、御来島いただいております。

平成28年も10月までの集計によりまして21万635人となり、昨年同時期に比較しまして119.1%の伸びとなっているところでございます。

航路事業者では、釜山・対馬間の便数の増加や船の大型化を実施したり、計画しておられるところもあり、さらに対馬へ御来島いただきやすい環境ができるものと期待をしているところでございます。

第2次対馬市総合計画では、外国人観光客数の目標を平成37年度に40万にとし、対馬の活性化を図ろうとしております。そのためには、議員御質問にもありましたように、宿泊施設関係、観光ルートの開発、港やターミナルの整備等、多岐にわたる課題を解決していかなければならないと思っております。

その中で、まず1点目でございますけれども、宿泊施設に関しましては、長年の課題でありました誘致が成功し、来年以降、キャパ数が増加しますが、グレードの高い施設がまだまだ不足しており、既存施設のグレードアップや誘致の活動を引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

2点目の観光ルートの新規開発構想についてでございますけれども、観光のメニューといたしましては、対馬固有の自然や歴史文化を表に出し、キャンプ施設の整備や予約システムの導入に既に取り組んでおり、今後も登山道の安全対策、トレッキングコースの整備を行い、さらには、朝鮮通信使のユネスコ記憶遺産登録や日本遺産登録に関するツアー商品の造成、サイクリングイベントの実施等に取り組んでまいりたいと思います。

3点目の港の整備についてでありますけれども、玄関口であります港の整備につきましては、入国者数の急増や大型船の導入計画等によりまして、岸壁や審査ブースの不足等が既に課題として起こっておりまして、大型船に対応できる岸壁の整備につきましては、現在、対馬振興局で御検討いただいております。審査ブースに関しましても、市及び振興局、C I Q等で構成するプロジェクトチームを発足し、増設に向けて協議を重ねているところでございます。

4点目の波及効果でございますけれども、平成24年の韓国人観光客が15万836人御来島された折の分析では、島内での消費額が33億3,000万円で525人分の就業に値するとの統計結果が出ております。

観光客の方がお見えいただくと、島内交通や宿泊、飲食、娯楽、お土産など、さまざまな方面での消費が拡大するわけで、それがまた島内の漁業者や農業者の売り上げ増加にもつながるものと考えています。

市といたしましては、今後も韓国人観光客の誘致の取り組みに加え、日本国内に向けた観光P

Rやコンベンション誘致にも力を入れるとともに、1人当たりの観光消費額の増加を目指し、宿泊施設や飲食店のグレードアップ、滞在型観光、体験メニューの造成等に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ありがとうございます。

先ほど37年度の数字が40万人というふうなことを述べられまして、全くその数字が今度大垂高速海運の800人乗り、それから、未来高速海運の440人乗りが新たに今年度参入したと、これを足せば従来約1,000人の、平成27年度までは1,000人ぐらいの観光人員を積み込む船の能力で約21万人、この数字は大体合います。25日ぐらいの平均に12カ月掛ければその数字が出ます。そのとおりです。

この800人の大型船と440人の追加のことが約2,000人です。2,000人にその数字を掛ければ60万人ぐらいの数字が出ますが、そんなにいきなりはいかんでしょう。

これが現実の中になってきた、そして、この勢いはホテルのいわゆる建設も私は大きくかわりがあるというふうに思っております。いわゆる韓国の海運会社と旅行会社はそこらは提携しておりますから、先の展望は見てのことだろうと思います。

そこで大切なことは、27年度の実績の中でちょっとお尋ねしますが、21万3,000人、この中で、市長、実際に対馬の地に入国されて、そして宿泊された方と日帰りで帰った方、この数字を把握しておるならば、日帰りの方の数字をできれば、部長でも結構です。お願いいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この27年度の21万3,676人の内訳につきましては、本日、私も持ち合わせておりません。

ただ、今のところ、日帰りの割合が大体が32%で試算しているというようなデータがあります。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それで結構であります。

ところで市長、日帰りということの中で、私は2つの理由があろうかと思えます。旅行会社、あるいは船会社が満載して対馬にとりあえず人を送る、宿泊施設がなくても日帰りでいわゆる企画をする、これは私も韓国の実態の中で、釜山のロッテ免税店等に大きな店がございますが、そこで免税品を、ブランド物、化粧品、若い女性はその船に乗って対馬にやってきて、関税の支払いを免れるというふうな仕組みを1つ、それから、対馬の島に来て、わずかな時間ですが、そう

いうふうな散策等をやって、対馬の食料品、スーパー、もしくは免税店で物を買って帰る。

こういうふうなことで、宿泊施設が足りないからそういう施策に転じておるといふふうに理解しておりますが、市長は日帰りということをどのように捉えていますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も、この日帰りにつきましては、特に比田勝港のほうにつきましても、買い物に来る、そういったお客さんが多いということは聞いているところでございます。

ただ、その中で、ホテル等の施設がもう少しグレードアップされることになれば、今現在、日帰りの32%のお客様が、日帰りが減って1泊宿泊される方がふえてくるのではなかろうかというように考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私も同じような認識をしておりますが、それではもう一つ、現在、28年度段階でこの対馬の既存の施設が、6町合わせて幾らの数字を把握されて、認知されておりますか。いわゆる宿泊施設の件数と収容人員の確定を対馬市はどのような方向で確認されておりますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 観光商工部関係のほうの資料によりますと、今の宿泊キャパは、現状98軒、2,304名ということで聞いております。

そこに、今後、東横インさんの巖原店が312人、そして、ティースリーが104人、そして、今、計画されております上対馬の三字田地区の東横インさんが300名、それに、理研ハウスさんが、不明でございますけども、大体300人近くになるのではなかろうかという話だけ聞いております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私も現状の宿泊施設と収容人員が本当に幾らなのかということがなかなか今までつかみきれませんでした。

それで、先般、保健所の許可の範囲で、実態は幾らですかというふうなことを正規の手続きをして把握してきました。これが意外に実態より多かったです。巖原56、美津島31、豊玉11、峰10、上県21、上対馬21の合計で3,166人が収容できるというふうな数字が、保健所の数字が出ております。ただし、廃業しない限り休止、要は営業を休んでいる、このことについては把握しておらないと。そして、またそのことについて届出は必要ではないというふうなことでありました。

その実態よりも低い数字が出ておるのは、恐らく営業がなされておらないというふうに理解をしたいと思います。

ただ、この基本があることをひとつ認識の上、実態を、市長、商工会も含めて、この6町の実態ちゅうのは再度把握しとく必要がないでしょうか。私、その辺は、今の98軒と2,304名というのが正しいかどうかちゅうのは、実は、観光協会の数字は2,700名ぐらの数字が23年度に出ております。

だから、その辺の、どこかでいつか、近いうちに実態を把握されたか、いかがでしょうか。その辺をひとつ御意見を。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 実態ということでございますけども、観光関係は、大浦議員さんおっしゃられたように、私も約2,700名という話は聞いておりました。

これが、実際いろいろあるわけございまして、消防関係の報告によりますと、消防関係はまた休憩室とか、そういったところまで宿泊人数が含まれるということで、まだ大きな数字となりますので、できるだけ正確な数字がわかるように努力してみたいというふうに思います。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そういうふうにお願いをいたします。

それから、次に、従来の既存の観光ルート、このようなことについて申し述べてみたいと思います。

このことについては、従来は観光協会がアンケートを実際に来られた観光客に、どのようなことで対馬に来たいかというふうなことを、そういうふうな実態調査を実施されて、実際は歴史関係とか、あるいは登山とか、釣りとか、その他のようなことがあっておったそうですけども、旅行会社の方針はそういうことじゃなくて、対馬の景勝地を中心に大型バスに観光客を乗せて、ルートによって走らせて1日を過ごす、このようなことらしいです。

それで、現在、一番その中で対馬の景勝地の観光施設としてヒットしておるのは、まず北から、三宇田浜、それから、韓国展望台、シーズン中のみじ街道、それから、豊玉の烏帽子岳、そして、和多都美神社、それから、万関に行って、途中湯多里ランド、そして、巖原の施設に一泊、これは上から下にのぼり上がる行程の中での代表でございます。

そして、帰りは巖原市内を散策しながら、あるいは帰路につくのは先ほどのルートと逆をやる場合もあるし、巖原港から帰る場合には、上見坂、あるいは内山の鮎もどし、その2つが代表的な今のルートであると、このように聞いております。

それから、市長、ちょっと申し上げなきゃいかんのは、眠った施設があると、そこを掘り上げてほしい、このようなことがございます。

1つは、豆殿崎の先まで行くバスの大型化の問題、そこについて、ちょっとどうしても、対馬の第2位の景勝地であるだろうというふうな意見でございます。そこについて、今後、それらの

バスのいわゆる拡幅の中で、豆敷崎、尾崎公園の方向に観光できるようなことに対して意見がございしますが、ひとつ市長の御意見を賜りたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私自身も大浦議員さんがおっしゃられるように、この対馬の観光施設の掘り起こしは大変重要なことだというふうに認識をしているところでございます。

そういった中で、この対馬最南端の豆敷崎の景勝地につきましては、私も重要な観光資源と考えておりますので、ここをもう少し道路等も整備したいし、水道施設等も引きたいという考えを持っているところなんですけども、ただ、いかんせん、聞くところによりますと、どうもこの尾崎山の土質、岩質というのが滑りやすい岩質だというようなことでありまして、なかなかこの拡幅が厳しい状況だということは、今、聞いているところでございます。

このことにつきましては、また、今後もう少し研究を重ねまして、できるならば、おっしゃられたように、もう少し大型バスがスムーズに走れるような形に向かって努力してまいりたいというふうに思います。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 非常に前向きな答弁でありまして、観光関係に携わるバスの責任者等がそういうふうな強い思いがございしますから、今の数字に2倍に膨れるようなことがある中で、観光の新規ルートの開発を積極的に進める、それともう一つ、私は過去2回ほど、上県の千俵蒔の観光道路の拡幅、そして、頂上に対して朝鮮海峡が見える1つのポイントをつくることを提言して、実際はそういう取り組みはございませんでしたが、先般、9月の定例会で春田議員がそのことに触れまして、市長は用地の確保をできるならば検討したいという意見を聞いたときに、北部のほうの観光箇所が非常に少ないです。時間がすぐ過ぎます。滞在時間の稼げる場所があそこは非常に、恐らく対馬一になるだけの要素があろうと思います。

そこらあたりを、前向きに用地の問題が解決するならばという話を聞いたときに、今やったらこれができることじゃないかなという思いがしておりました。もう1回、その点を触れてみたいと思うんですが、市長、その辺の裏づけというのはございします。あそこは対馬一の景勝地に匹敵する、言葉としてはそういう場所です。それで、上の代表する烏帽子岳と互角にいける場所と思っております。ここを確保することは、上のほうの滞在時間を1時間ほどあそこで稼ぐというふうなことになるかと思うんですが、その辺の決意、思いを非常に私は重く捉えておりました。ひとつもう一回、その辺をお聞きしたいと思います。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この北部地域の、特に千俵蒔山の観光ルートにつきましては、私も用地の関係ができればやりたいというような話もさせていただきました。そして、また必要だという

ことは私も考えております。

ただし、佐護の集落のほうからの距離がかなりあるというようなことで、そこまでの道路も改良しなくちゃならないというようなことを考えますと、なかなか事業費を確保するのが難しいのかなという思いは持っておりますけれども、このことにつきましても、できるだけそういった方向性で進めてまいりたいということは考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ついでに、担当部長さんでも結構なんですけど、あその現状は、井口浜から約3キロです。既存の道路が幅員4メートル程度で走っております。非常に線形が地形なりになっておりますから、大型バスが、烏帽子岳もちょっと狭いんですけども、基本的に、改良せないかんとこと現状使われると、検討の上、私は1つの取り組みとして、延長幾ら、事業費が幾らぐらいかかるだろうというふうなことを進められて、ぜひ市長就任のうちにその方向を打ち出して、実施に移す方向で、私は期待しております。

これは個人の意見ですが、そういうようなことで、今の烏帽子岳についてはそういう思いがございます。

それから、今まで重要な観光ルートの中で、1つは、鰐浦の展望台の入口から駐車場まで、そして、烏帽子岳の拡幅が不可能であるということで信号機の設置、ここは非常に力を入れていただいて助かっております。バスの運転手さんの意見でございます。

ただし、雨降りと霧の天気有的时候に、そのセンサーが稼働せずに上から下がる、下から上がるというふうなことがうまくいかないと。ですから、従来と同じようなことになっておるということで、ここの解決について、ひとつ力は入れていただけたらどうかというふうなことを建設部長に、これは従来の部長さんやっと思えますけれども、申し上げた経緯があるんですが、その後のことと、それから、申し上げました韓国展望台の入口が狭くて、大型バスの離合が非常に困難なことであると、ここの改良をお願いしたいという意見がございましたが、部長さんでも結構ですが、その現状と認識の2点を答えていただきたいと思うんですが。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、烏帽子岳の件でございますけれども、この件に関しましては、私自身も直接バスの運転手さんからそのような話を聞いて、早速、担当部のほうと話をしたわけでございますけれども、このことにつきましては、今、無線で飛ばしている信号システム、これの関係が補助金の適化法との関係がありますので、これをすぐに有線のほうに取りかえるのは難しいといったことが担当部のほうから話っております。

それと、鰐浦の展望台のほうにつきましては、現在、鰐浦地区からのほうのものと県道でございますけれども、こちらを改良を進めているところでございますので、これが完成すれば、一方通

行であればそこら辺の解消が図られるのではないかなというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） その点はよくわかりましたが、ただ、烏帽子岳の件は、そのままにして、これが雨降り、霧の気候の中で、天候の中で、万が一のことがありゃという思いが非常にします。

というのが、23年度に観光バスが40台あったんです。現在、幾らか数字は把握していませんが、恐らく60台前後の数字じゃなかろうかと思うんですが、これが一気にあそこに集まりますから、大きなことにならなええがなということで、これは市長、無線と有線の話だけで終わるんじゃないくて、例えば、そういうふうな天候のときには上がらないとか、結局、周囲の景観は見えんとですよ、そのときに上に上がっても。しかし、ルートの設定の中で時間の消化する点もあるから、仕方なしに上がらないかんというのはあるでしょうが、大ごとになりゃ、あそこに行ったことがあるでしょうが、とても大型バス2台が自由にバック、前進、これはそういうふうなことではなくて、恐らくベテランの方でも、やっぱり恐ろしい箇所であると聞いております。

これは、もう一回、市長、慎重に検討の上、そこらあたりは最終的な答えを出すには、もう少し熟慮されてやっていただきたい、かように思いますがいかがでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 信号機の件につきましては、先ほど申し述べたとおりでございますけれども、これとは別に、今現在、中対馬振興部のほうで、この烏帽子岳、そして、和多都美神社を核とした観光開発等の計画を組み立てるべく、今、そういう会議を組み立てているところでございます。

その中で、どのようなことにすべきかということが、またいろいろと検討されると思いますので、そこら辺を見ながら最も最善の方策を検討してまいりたいというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 港湾の整備についてお尋ねをいたします。

最終的に巖原港の港湾の整備は、現在、オーシャンフラワー2がこの間、12月10日に接岸しておったと思います。大きな船です。ここが現在工事中であります、船の長さが81メートル、現在の岸壁の完成度合いは75メートル、それで県の港湾のほうも、あるいは海上保安部のほうと形成の強度の問題、それで、かなり時間を費やしたようですが、とりあえず、土曜日と日曜日の係留だけは認めると。これは工事中につき、土曜と日曜が休みという意味です。その間、月曜日から金曜日はあいできないと、係船することはできないと、このようなことでございますが、土曜日、日曜日のみのオーシャンフラワー2、800人乗りが入るわけですが、これが完成して、それがなくなるのはいつごろになるんですか。

県の工事ですから、しかし、連携をもって、船の接岸というのは注目しておるんですが回答できますか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） そこら辺の詳しいところは私のほうはまだ把握しておりませんので、担当部長のほうに答えさせていただきます。

○議長（堀江 政武君） 建設部長、佐伯廣教君。

○建設部長（佐伯 廣教君） ただいま直轄で行っている岸壁なんですけれども、現在、75メートルできています。計画としては140メートルになっておりまして、残りの65メートルを今年度、28年度に工事を行うこととなっておりますが、もしかしたら繰り越しになるかもしれません。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それと、護岸が完成した場合、国内フェリーがございますが、岸壁が、ここに外国船の、さっき言いましたオーシャンフラワー、あるいはフラワー2、コピー、ニーナ、この名称の船が着くように話を聞いておりますが、接岸する岸壁が入れかわるといふうなことで解釈はよろしいでしょうか。

それと、国内ターミナルが一応増加してつくられると、こういう解釈でよろしいですか。厳原港の。ちょっと確認いたしています。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 厳原港の国際ターミナルにつきましては、現在、国際ターミナルとして使用しているターミナルのほうを、平成29年度から3カ年で国内ターミナルとして作りかえる予定としております。

そういうことで、今の国際ターミナルの前の岸壁のほうがフェリーの岸壁になるやに私のほうは聞いております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） それでは、比田勝港にまいります。

私は、比田勝港の現状は、接岸する時間帯が非常に多ございますから、7割、あるいは6割5分ぐらいは比田勝港に船が集中しております。

それで、今のオーシャンフラワー2の800人が比田勝港に着く可能性はあるんですか。その辺は今からのポイントになるかと思うんですが、そこらあたりまでは検討されていません。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今度のオーシャンフラワー2につきましては、比田勝港のほうでは、今

現在の構造では着岸が不能だということでございます。

そこで、係船柱、ピットのほうを4,200トンでしたか、シーフラワー2に対応すべく、今年度予算に計上をされているところでございます。このピット等が完成すれば、比田勝港のほうにも着岸は可能ということを知っております。

ただし、今現在、JR九州高速さん、そして、未来高速さん、こういったところとの運行会議と申しますか、そこら辺のところがかちんとならないとなかなか難しいという話も聞いております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） いずれにせよ、比田勝港に接岸といいますか、そこを望んでいる船会社のような方向ですね。それは、就航時間が短く、燃料もいらんということで、そういう思いなんではないかと。

それと、もとに戻りますが、新規開発する観光ルートの考え方の中で、これだけの資産がありながら眠っておるじゃないか、ここを掘り起こせば、少しは芽が出るというふうな意見がございました。その意見をお聞きしたいと思います。

まず、城山の登山。城山の値打ち、価値というのは非常にあるそうでございます。ただし、箕形の県道から幅員4メートルの美津島町時代につくられた道がございます。あそこをバスで、道路改良の中で、蔵ノ内、要は田んぼがもとありますが、あそこまでの距離に道路の拡張はならないかというような提言がございました。

そして、最後に、姫神砲台の位置づけが、今の道路ではなかなか難しだろうと、これをもう一回、かけ直すことが可能かと、市長の意見でも、部長の意見でも結構ですが、この2点について、そういうふうな意見が上がっております。眠っておると、非常に価値のある観光資源が眠っておるといふような御意見ですが、この2点についてお尋ねをいたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、資源の関係で、1点目の城山でございますけれども、ここは金田城があるということで、来年は、この金田城で古代山城サミットも開く計画でもありますし、バスが通るほどの道とまではいきませんが、県道から田んぼのあるところまで、待避所を数カ所程度つくる計画で、来年度の予算に計上を考えているところでございます。

そういうことで、今現在は車が来たときに、鉢合ったときにはバックしたりしているような状況でございますので、お互いに待ち合わせて、待避所でうまい具合にすり合わせていただきたいなというふうに思っているところでございます。

そしてまた、2番目の姫神砲台の件でございますけれども、ここの遺跡につきましては、私自身も大変すばらしい遺跡であるということは認識しているところでございます。ただし、あそこが

集落から上まで、確か2.3キロ近く路線延長があったと思います。そういう中で、ここも一度に舗装等をするのは難しいということで、昨年から少しずつ予算を入れながら、まず、道路状況の悪いところから補修をしているような状況でございます。

ここを改良で幅を広くできるのかという話もございますけども、ここは何か用地の買収等がちょっと難しいというような、そういう話もございますので、今現在の道路の中で対応していきたいというふうに考えております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 新規の観光開発というふうなテーマでやっておりますが、民間のある方がこのような発言をされて、取り組んでほしいということがあっております。

巖原市街を見渡せるロープウェーを有明方面に発してくれんかというふうな話の企画をしてみてくださいんかということでありまして、私は、長崎の稲佐山やら、雲仙の仁田峠、この2カ所の勉強を、電話で入れて十分な検討をしてみて、市側に提言をしてみたいと思うんですが、そういうふうに巖原市街を見渡せる企画の観光をぜひやりたい、やってみたいというふうな意見でございます。私も勉強して、そのことについて可能性を探ってみます。

もしよろしければ、意外な角度でございましたけども、もし意見があられば、なければそのまま結構ですが。いいですか。

○議長（堀江 政武君） 市長。

○市長（比田勝尚喜君） ロープウェーということでございますけれども、私も、ロープウェーだけじゃなくて、巖原の町の中を横断するようなロープウェーもつくれというような、そういう話も聞いたことがありますけども、市のほうでそのような財源を確保することは大変難しいような状況でもございますし、できれば民間サイドでそのような計画をしていただければ幸いというふうに考えます。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 時間があと6分です。

経済効果の考え方をまとめてみました。対馬に来た場合、1人当たり幾らのお金を使うか。

例えば比田勝から上陸します。昼前ですから、昼食で800円前後、それから、バスに乗って巖原に行った場合1,500円から2,000円程度、そして、夕食で1,500円の、旅行会社の中の個人の負担ですよ。それから、宿泊が3,500円から4,000円前後、そして、朝食で500円前後。それが1日です。

帰りは先ほど言いますように、例えば、これが巖原港から帰る場合といろいろありますが、そうしますと、1人当たりのお土産は3,000円前後じゃなかろうかというふうな、バス会社の方の意見でございました。3,000円から5,000円にしても、恐らく1人から2万円は、船

を降りてから2万円が使う金だろうというふうに、1泊2日、こういうふうに、最低そのくらいのラインじゃなかろうかと思われます。

それに、飲酒代は、特別に夜の町に出て飲む金もございませうが、そこらあたりのことが地元に着るといふふうに思っておりますが。

そうしますと、27年度の数字が40%日帰りというふうな見方を私はしたんですが、先ほど三十幾らという市長の数字と違うんですが、21万3,000人の2万円で、これは42億円ということですが、この数字は間違いでありまして、そのうち6割が対馬に1泊する、そうしますと、12万7,800人が2万円使った場合、25億5,600万円ほどの金が落ちるといふことになります。

日帰りは、恐らく島で使う金は食料品と免税店だと思います。それか、レンタカー、サイクリング。それにしても、これが8万5,000人の試算で5,000円を使った場合に約4億2,600万円。このことが間違いなく消費できた金額だろうと思うんですが、ここらあたりはどうですか。私は、大体聞き取りでやったんですが、その辺をどう思われています。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このことにつきましては、平成27年度の県の観光統計のほうの資料がございませうけども、この観光の統計資料につきましては、宿泊客が1万9,705円、そして、日帰り客が1万5,400円となっております。

このことから試算しますと、全体で約39億2,000万円の消費額というようなことで算定いたしております。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 時間もございませぬ。

そのことはいろいろな考え方があるでしょう。

それで、この中で、既存の観光施設の中で、1つの集落から指摘がっております。

これは美津島町の洲藻地区の白嶽登山道に対する大型バスの集落の中の入込み、これが幅員4メートル、農道ですから、舗装厚も既存の道路よりも薄いはずで。

ここについて、1回、財部市長の在籍の折、検討してくれんかということ言うんですが、狭すぎて人が歩かれんから、中型バスの程度でいいが、大型バスを頻繁にということ苦情が出ておりました。

集落の皆様の意見と現実のその実態を、担当部署は把握されて、集落の皆様の意見とバス会社の意見を両方聞いた中で、再度、比田勝市長の体制のもとで、一遍、話をさせていただきたい、このように思いますがよろしいでしょうか。その点。そういう指摘がっております。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） そのような指摘があったということで、ちょっと担当部署のほうと協議させてほしいというふうに思います。

○議長（堀江 政武君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） ありがとうございます。

終わるんですが、大きな数字が動いてくる中で、地元としても、この観光客の受け入れを、将来の展望を持つことが対馬の経済の一部でございます。

そういうふうなことで、ひとつ、3つの事柄について、担当部署のほうにおいてはよろしく研究していただきたいと、かように思います。

以上で一般質問を終わります。

○議長（堀江 政武君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

---

○議長（堀江 政武君） これで本日の市政一般質問は全て終わりました。

あすも定刻より引き続き市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後4時00分散会

---